

## サウロ (後の使徒パウロ)の回心

使徒パウロ (回心前の名はサウロ)は二千年にわたるキリスト教会史上、最も偉大な働きをした指導者のひとりである。キリストの福音の恩寵性と普遍性 (世界性)を理論的に説き明かし、また3回にわたる大伝道旅行を敢行し、福音の世界的拡大に貢献した初代教会最大の使徒であった。

彼は小アジアの東南のキリキア州の州都タルソに生まれた。タルソは、ギリシャのアテネおよびエジプトのアレキサンドリアと並ぶローマ帝国の三大学問都市の一つとして栄えた文化都市であり、そこで、ユダヤ教の中で最も厳格をきわめたパリサイ派ユダヤ教徒の家庭に生まれた。彼は生まれながらのローマ市民権を持っていたので、恐らく彼の家庭は、地位 財産ともにユダヤ人の中でも上流の家柄であったと思われる。

彼の父は、パウロを早くからエルサレムに送り、当時のパリサイ派の大指導者ガマリエルの下で教育を受けさせた。ガマリエルの下でのラビ教育は、パウロを熱烈的なパリサイ主義のユダヤ教徒に仕上げた。彼がガマリエルの弟子としてエルサレムに何年いたか不明であるが、恐らくエルサレムでの修養後は、故郷タルソにかえり、律法を教える職業に就いたと思われる。

しかし、ステファノの宣教活動が活発になった頃、彼は再びエルサレムに滞在しており、キリスト教会に対する反対運動の首謀者となった。彼にとって、十字架につけられたナザレのイエスをメシアと主張することは、神に対する冒涇であり、またユダヤ教の中心であるエルサレム神殿及び律法に対する批判は、モーセの権威と昔からの言い伝え、慣例を破壊する行為であり、ともに許すべからざる罪であると考えられた。彼はステファノの死を積極的に承認するとともに、この宗教運動 (キリスト教)を根絶することが自分に与えられた使命であり、神と律法にもっとも忠実な行為であると言じ、自ら進んでキリスト教徒迫害の指導者となった。

パウロによる教会迫害は、エルサレムから始まって外国の町々にまで及んだ。彼は大祭司のところに行き、ダマスコの会堂にあてた添書を求め、キリスト教徒に対する脅迫、迫害の息をはずませながら (9:1 口語訳)、ダマスコへの道を急いだ。しかし、そのダマスコへの途上、彼は天からの光によって地に投げ倒され、そこで天の栄光に包まれた復活の主イエス・キリストに出会い、劇的な回心を遂げた。

彼の回心のストーリーは、使徒言行録に3度も繰り返し記録されているのを見ても (9:1? 19, 22:6? 16, 26:12? 18)それがいかに重要な出来事であったかが分かる。ダマスコ途上における復活のキリストとの出会いは彼の人生を180度変えた。熱狂的なパリサイ人サウロは熱烈的な福音の擁護者パウロとなり、教会の迫害者サウロは教会の偉大な使徒パウロに変わった。

彼は当時のローマ帝国を3回にわたって大伝道旅行を敢行し、その結果、キリストの福音はアジア地方からヨーロッパに伝わり、キリスト教会は帝国内の各地へと発展していった。迫害者から伝道者 (使徒)へと大転向を遂げたこのパウロこそ、キリストの復活の偉大な証人であり、その生涯こそ、神の恩寵の強力な証言であった。キリスト

は生きておられる、生きて、今もなお働いておられる、パウロを変革した復活のキリストは私たちの主でもあることを、今日の私たちもしっかりと心に刻み込みたいと思う